牧師のデスクより　　使徒言行録８:1- 25

教会の迫害と福音の拡大

ステファノの殺害事件（殉教）をきっかけとして、教会に対する大迫害が起った。その急先鋒となったのが、ステファノ処刑のとき証人たちの上着をあずかったサウロ（後のパウロ）であった。熱烈なファリサイ派ユダヤ教徒サウロは怒りに燃え、家々に押し入って、男や女を引きずり出し、次々に獄に渡して、教会を荒し回った（８:1?3）。

迫害の主目標とされたのは教会の中のヘレニストたち、すなわち、外国帰りのユダヤ人で信者になった人々であった。彼らは迫害の中、ユダヤとサマリヤの地方に難を逃れねばならなかった。教会は、その初期の段階で大きな困難に直面し、その存在が根底から覆されるような危機に瀕したように見えた。しかし迫害は決して福音の前進を妨げ得なかった。神は彼らの逃避行をむしろ福音宣教の機会に変えた。「散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩いた」（８:4）。そこに私たちは、私たちの思いを超えた神の不思議な摂理のわざを見る。

この地上にある限り、教会は（そして私たちキリスト者は）いろいろな困難に直面する。信仰上の霊的な戦いがあり、仕事上の困難があり、経済的な困難との戦いもある。しかし、神はあらゆる状況を支配しておられ、どのような困難をも最終的にはご自身の栄光となるように、また私たちの祝福となるように導いて下さる主権者なる神であることを覚えることは大切なことである。

教会に対する迫害は福音の前進の大きな機会となった。イエス・キリストの福音は、散って行った信徒たちによってユダヤの各地および隣国サマリヤへともたらされた。サマリヤにおいては殉教者ステファノの同僚フィリポによってめざましい働きが展開され、一大救霊運動へと発展した。多くのサマリヤ人がぞくぞくと信じて洗礼を受け、サマリヤにキリスト者の群れが誕生した。

フィリポのサマリヤ伝道と、他の信徒たちによる近隣諸国への福音の宣教は実に画期的な意味をもっていた。それは、イエス・キリストの福音が、一民族に限られたものではなく、世界的な広がりをもった神の恩寵のわざであり、ユダヤ人だけでなく、すべての民族に提供されている神の恵みの招きであることを示す出来事となったのである。

復活の主は、天に昇って行かれる前に最初の弟子たちに言われた、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そしてエルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリヤの全土、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」（１:8）。サウロによる教会迫害で散らされていった人々によって、意外にも引き起こされた福音の宣教を契機として、キリスト教のユダヤ民族的性格は次第に克服され、イエス・キリストの福音は、普遍的世界的キリスト教へと脱皮発展していくのである。

後に劇的に回心し使徒パウロとなった迫害者サウロは、ガラテヤの信徒たちにこう言う。「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありま

せん。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」（ガラテヤ 3 26?28）。